情報

日経優秀製品賞 開発責任者は語る

ヴァル研究所 研究開発部長 岡村 隆氏

統合ソフト「ファラオ」

「ファラオ」は表計算やデータベース作成・検索、ワープロ機能などを併せ持つ統合ソフトである。開発を始めたのは六十年春で昨年六月に発売した。開発の際に最も気を使ったのが「使いやすさ」だ。

この種のソフトを利用する人は技術者ばかりではない。事務職で、使う頻度も一週間に一度、あるいは一カ月に一度といった人にも違和感なしに使ってもらうにはどうすれば良いか――に知恵を絞った。

工夫した点のひとつが、画面との対話型式で使えるようにしたことだ。難解なマニュアルを見なくても画面の指示に従えば操作できる。さらにこうした指示は文書入力以外はマウス（簡易入力装置）で入力する方法を採った。

「ファラオ」開発の際に非常に役立ったのが、五十九年に開発した統合ソフト「ぱぴるす」での経験である。このソフトはこれまでに一万本以上売れたが、ユーザーからの注文も多かった。窓口に集まった改善要求は千項目にのぼり、これを三百項目に絞って上位ソフトである「ファラオ」の開発に生かした。

「使いやすさ」を追求

扱いやすいというファラオの特色を生かして新しい展開も始めている。昨秋開発した「ファラオV」である。

ファラオを搭載したパソコンをミニコンのオンライン端末として利用できるようにした。対象機種はDEC（ディジタルイクイップメント）の「VAX」である。

企業の社内ネットワークは分散する傾向が顕著に出ている。たとえば本社に大型のホストを置き、支社にはミニコン、各営業所にはパソコンを設置してそれぞれをオンラインで結ぶ。この場合、各営業所はオンラインでミニコンを動かしてデータ処理をする必要がある。

「ファラオV」を使えば、画面対話形式、マウス利用で、ミニコンを手軽に動かせる。今後この分野での需要も急増すると見ている。

発売以来すでに五千本近く売れ、出足からみると「ぱぴるす」より好調だ。ただ問題点もある。管理できるファイル数を大幅に増やすなど機能拡充のために、ソフトの容量が一メガバイト（一メガは百万）に達し、処理速度が遅くなった。この点はハードの進歩に期待する。

日販とCCC ビデオレンタルにPOS

出版取次大手の日本出版販売はカルチャーコンビニエンスクラブ（CCC、本社大阪、社長増田宗昭氏、資本金三千五百万円）と共同で進めているレンタルビデオのFC事業にPOS

効率高め 正化へ

ビデオレンタル店は全国で約四千店といわれ、なお急増している。レンタル店同士の競争が激化する中で、商品の多品種化、在庫本数の適正化が最大の課題となっている。両社が昨年以来進めているレンタル店のFC事業は、加盟店の発注代行、コンサルティングが主要業務。

ては、日販のビデオ専門の流通センターから宅配便で加盟店に送る。また売り上げデータは新作ビデオの送品本数を決定する際にも活用する。ビデオソフトは作品点数が急増しているうえ、レンタル店の立地によって売れ筋が大きく異なる。従来は台帳に頼っていた売り上げ管理をコンピューター化することで、キメ細かい品ぞろえが可能になるとみている。

FC加盟料金は百万円で機器のリース料金が月額八万円。現在の加盟店は約百店で近いうちに全店に設置する。

パソコン学習用のCAIソフト販売 TDK

TDKはパソコン学習用のCAI（コンピューターを使った教育）ソフト「BASICプログラミング基礎コース」を二十日から販売する。パソコンとの対話形式でパソコン用プログラミング言語BASICを学習できるほか、コンピューターの基本構成、働きなどを学習できる。自動的に学習記録をとるため、利用者は成績をみて弱点を確認できる。対応するパソコンは日本電気の「PC-9800シリーズ」で、販売価格は五万円。

光広告板

【京都】広告代理店の日商社（本社京都市、社長村田侑三氏、資本金九百六十万円）が中国の天津美術装飾公司なユーター・アド・ボード」を設置、広告を開始した。

設置場所はデパートや商店スも行き交う一等地。

広告板は高さ約二・五㍍、横幅八・三㍍。横に三列、合計三十字まで電光

天津の中心街に